

性教育の実践に於ける基本的な考え方とその指導方法

〈そのⅠ〉

小 林 壽 子

はじめに

I 性教育の概念

II 戦後の性教育の足跡

- 1 純潔教育時代
- 2 性解放を志向した性教育時代
- 3 総合的な視野に立った性教育の時代

III 性教育の目標

- 1 性教育の基本的な目標と発達過程
(1) 養う (2) 知る (3) 創る

IV 性に関する生徒の意識や行動の実態

- 1 性的成熟の促進化傾向
- 2 異性との交際

V 性教育のすゝめ方

- 1 実施上の基本的原則
- 2 実施例
その1 (中学1年) ～その4 (高校)

VI 資 料

- 男女交際についてのアンケート集計結果
- 図と表にみる妊娠中絶〈世界と日本〉

はじめに

やっと長い沈黙を破り文部省が始めて性に関する指導の手引書を発表した。といっても生徒指導資料、生徒指導研究資料としての指導である。性教育に関しては私学が独自の方法で研究しその実践報告や研究が発表される様になってもう既に10数年を経過している事を考えると何故これ程迄に遅くれたのかと疑問である。財団法人日本性教育協会が性教育指導要項

解説書を発行したのが1980年。続いて改訂性教育指導要項解説書を発行したのが1984年であった。しかもこれらの解説書は 250頁にも及ぶものであるのに比して、今夏文部省から発行されたものは 102頁の中学校・高等学校編であった。単に頁数のみで云々するわけではないがその考え方に於いても一貫して「性に関する指導の基本、性に関する指導の役割……」の記述方法を用い、性教育との言葉を使用していない点は、人間の性に関する在り方を学校教育の中で全人的な考え方で明確に把握し教育しようという姿勢の体制がはなはだ明確でない様に私には思われてならないのである。この事はさておき、今や巷に性情報が氾濫し、性産業がとどまるところを知らずの感がある中で、その人間の生き方に関わる性教育を真に正しく教育していく事が今だからこそ大切だと思うのである。

私が性教育に携わる様になったのが、今から16年前の昭和46年からである。当時はどこを向いても性教育という言葉は耳にする事がなかったが、前任校の私立女子高校で3年生に対して「結婚講座」と通称呼ばれる講座を持っていた。この講座の目的は女子ばかりの学校環境の中で（男性教員数も極端に少なかった）社会に出てからの男性との交際に対して或る程度の知識と態度を身につけさせ極端な心配や困惑に陥る事のない様に、いわば卒業後の男女交際に対する心得と幸せな結婚生活へ入る為の結婚準備講座的な性格を持った内容であった。この講座は宗教の時間や時には倫社の時間が週1時間充当され担当は17年前の1年間のみ日本人のシスター（修道女）が受け持たれたがその後は何故か私のところに廻って来て、今年も9月27日の最終講義となった。最初は3ヶ月間行なわれたが、それはほんの最初の頃のみであり、半年間前述した様に組別に週1時間およそ15時間程行なわれるわけである。ずっと後で全国私学研修会に於いて、更に早くより実践している学校を知った。それは仙台の聖ウルスラ学院高校と、東京の和光高校、吉祥女子中学高校である。各校独自の方法で長い年月、地道な方法で研究と実践を行っている事を尊敬の念を持って上げた。公立校でも東京の新宿区立戸山中学校で国語担当の教師が教科で又ホームルームで長く実践しておられる事を聞いた。まだまだ知り得ない学校での実践例はさがせばあるのではないだろうか。

I 性教育の概念

さて性教育とはどのような教育なのであろうか。戦前・戦後の性思想の変遷にともない、性教育についてさまざまな考え方がある。たとえば性教育を行なおうとする事に対して、「寝た子を起こす」ような事をする必要はないというものや、性情報の氾濫に対して性に関する科学的な知識を伝達すべきだとするもの、又性非行や性犯罪の増加、低年齢化に対処したり、性被害を防止する為に社会的な規範や男女間のマナーを教えるべきだという意見もある。又処女性を尊重する教育を主張するものもある。

しかしこれらの考え方はいずれも性教育を単に人間の性生殖器の構造・機能やそれに関わる人間の行動に関する教育としかとらえていない。

しかし人間の性はその人の人格の中心的部分に組みこまれている基本的な条件の一つで

あって、男性であるか女性であるか的事实やその認識が、その人の人生観や思考、行動の仕方や社会的・職業的な活動、友人の選択や服装・態度などにも差異をもたらす、いわばその人間の生き方を決定する要因ともいわれる。しかもその人の性に関する条件づけは、幼児から成人にいたる成長の過程で、家庭や学校・社会における人間関係や性の文化などによってもたらされるのである。

したがって、性教育は、単に生理学的、解剖学的な教育のみでなく、人間関係における心理的・社会的な面や、その背景となる生育環境など、人格と人格の触れ合いを含む幅広い性の概念に立った教育、いいかえれば、「ヒューマン・セクシュアリティ」(Human Sexuality)の教育である。

このような考え方からすれば、さまざまな場所で、さまざまな形態での性教育が考えられるが、学校に於ける性教育については、次のように概念づけることができる。すなわち学校が行なう性教育とは、教育基本法第一条に示された学校教育の目的を達成する為の教育活動であり、「幼児・児童・生徒の発達に応じて、性に関する科学的な知識や社会的ルールについて学ばせるだけでなく、性に対する個人の自覚を深め、豊かな情操と健全な行動を培い、社会的人格の完成を目指す教育」ということができる。

Ⅱ 戦後の性教育の足跡

性教育のあり方を正しく理解する為に、現在迄の性教育の流れをざっと記してみたい。

1. 純潔教育時代

昭和20年8月に敗戦を迎えたわが国は、生活難と旧秩序やモラルが崩壊するなかで、巷には売春婦が横行し、又復員兵が持ち帰った性病が蔓延するきざしをみせていた、この様な状況に直面した政府は、昭和21年11月に文部省・法務省・厚生省・労働省・警察庁などの関係省庁の事務次官会議を開き、「私娼の取締り並びに発生の防止及び保護対策」について総合的対策を審議した。この決定に基づいて文部省は昭和22年1月6日に社会教育局長から都道府県に対し「純潔教育の実施について」を通達し各地の事情に応じた具体策の企画と実施を要請した。これが我が国での性教育を公的立場から取り上げた最初である。

その後22年6月に「純潔教育委員会」が発足し、24年2月「純潔教育基本要項」が30年には「純潔教育の進め方（試案）純潔教育の普及徹底に関する建議」が文部大臣に選出されるなど、純潔教育の普及に対する努力が行なわれた。そしてこの状態が、昭和40年代前半まで続くのである。

2. 性解放を志向した性教育時代

1970年（昭和45年）に入る頃から、セックスリベレーション（Sex Liberation）（性解放）やフェミニズム（女性解放）の思潮が強くなり、昭和45年2月にNHKが性教育番組を3日間にわたって放映して注目を集めた頃から次第に「性教育」が「純潔教育」にとって代って人間の性に対する受けとめ方も変っていった。例えば、アメリカのキンゼイ氏やマスターズ

博士と並んで第4回世界性学会議で世界性学賞を受賞した日本性教育協会常任理事の故朝山新一教授は著書「性教育」の中で「純潔教育」を批判すると共に「アメリカ・北欧・西欧にみられる〈自由な性〉の現実を旧道德の感覚で、慣習的に性の退廃という言葉で非難し去るのはあまりにも単純すぎる態度であろう。性は人間のこれ迄の歴史になかった在り方で肉体の制約から解き放され、新たに精神の領域に歩みようとしていることに気づかねばならない」と述べて性解放に積極的な理解を示している。

この様に1970年代に入ると人間の性は妊娠・出産という宿命的な性の生物性や過度の禁欲的性道德から解放されて、新しい道を求めようとする気運が高まり、これが性教育の在り方にも大きな変化を与えるようになった。

これと並行しつ性教育の視野も必然的に拡大されてきた、従来は性教育といえば幼児期から青年期迄の未成年者を対象とし、主として思春期に重点を置く傾向があったのに対して、性科学の発展や平均寿命の延長などから性教育は胎児期から老年期迄のライフサイクルに視点を広げた生涯教育の一環としてとらえられるようになった。そして一般の児童生徒だけでなく、心身障害児（者）に対する性教育の研究と実践も強く要請された。

以上のように性教育の研究や実践も時代と共に変わってきたが、昭和50年代に入ると、ますます社会の性文化や性風俗は開放化の速度を増し青少年の性意識や性行為に大きく影響を与える様になっていった。例えば昭和49年と56年に実施された総理府の『青少年の性行動』調査をみても（別図1・2・3）高校生・大学生の性交経験者は大幅に増加し、特に女子の増加率が著しい。これと並行して10代の女子の人工妊娠中絶は50年度以来、毎月確実に増加しつづけ、売春を含む女子の性非行も増えている。（別図4）

このような状況に対して、文部省は学習指導要領の中に性教育を明確に位置づけないまま今日に至っているが、各都道府県や市の教育委員会では必要性にせまられて性教育の手引書や指導資料を作成配布しているところが次第に増加し昭和56年に日本性教育研究会が調査した結果、31都道府県に及んでいる。

この様に1970年以降は人間解放の線に沿った性教育を求めて歩んできたわけで、現在もその延長線上にあるといえる。

3. 総合的な視点に立った性教育の時代

1980年代を迎え、欧米に於ける性解放や女性解放運動の現状が次第に明らかになってくるにつれ、考慮すべき問題点がクローズアップされてきた。例えばアメリカでは新しい性病といわれる非リン菌性尿道炎 (NGV) や性器ヘルペスが流行し、又死亡率が極めて高い AIDS (後天性免疫喪失症候群) といった新しい病気が発生している。

このような医学的な問題だけでなく、婚前性交が多く見られ10代の少女が妊娠し、その心理的、社会的未熟な母親から生まれた子供達は、精神病理学的に見て問題が多いと、ソル・ゴードン教授は指摘している。更に離婚や一夫一婦制度を根底からゆさぶる「集団婚」「同性婚」「独身主義」「開放婚」及び「スインギング」などがふえてきて、子供の置き去り現象

や人間疎外が大きな社会問題になってきている。又男女の在り方についても「役割危機—role crisis—」という見方もあり、これ等全ての問題を含めてよく考えなければならないと思う。我が国は戦後以来アメリカ文化のあとを5～10年遅くして歩んできたとよく云われるが、性教育の面ではあくまでも主体性をもった道を模索すべきであると思う。性には肯定的側面だけでなく、性犯罪、近親相姦、性倒錯、性病、性への耽溺から生じる自己崩壊などの否定的側面があることも事実であるから過去のように性の否定的側面だけに目を向けるのは誤りであるが、その反動で肯定的側面だけに目を向けるのも同じく片手落ちであるから、両側面を正しく把え、これを性教育の中に適切に組み込むことが今後の大きな課題といえるのではないかと思う。

Ⅲ 性教育の目標

広義の立場からいえば、性教育の対象は胎児期から老年期までを含む生涯教育の一領域である。従ってそれぞれの年齢段階や学習の場に応じた目標が必要である。ここでは幼年期から青年期までの成長期間に於ける教育目標を示すことにする。

1. 性教育の基本的な目標と発達過程

人間の性の特質は、アメリカ性情報、教育評議会(SIECUS)がセクシュアリティ(sexuality)という概念で示しているように、人格と不離一体の関係にある点であり、性教育のねらいをごく概括的にのべると、「乳幼児期からの人間形成の過程を通じて、その人のパーソナリティの中に性に対する健全で豊かな心情とよい生活習慣を養い、科学的な知識や社会規範を学ばせることに依って、個人的・社会的人格の完成を目指す教育である」ということになる。その為には次に示した三つの教育的な目標を、子どもの発達段階に応じて適切に組み合わせ、習得させることが大切である。

(1) 養う

この目標は性に対する受けとめ方、清潔感、規律性、自己調節力および人間関係への感受性など、心情面や生活習慣の基盤を養うことをねらいとしたものである。

人間形成はまず五感を通じた理屈以前の直接体験、即ち第一信号系による学習から始まるimprinting(刷り込み)とか、conditioned-reflex(条件反射)などを含めた初期学習は無意識のうちにパーソナリティの基盤を形成する。このような直接体験的学習を「養う」という表現で示した。

(2) 知る

この目標は主として言葉や文字などの第二信号系を使用した知的学習により、性の科学的理解をねらったもので、次の四項目がある。

- ① 自己の心身にわたる性的発達と変化を知ることによって、自己指導の能力を高める。
- ② 男女の心身や行動の異りを知ることによって、相互理解と協力の態度を培う。
- ③ 親子関係・家族・家庭の在り方を知ることによって生命の継承に対する認識を深め敬

愛と協力の精神を高める。

- ④ 社会に於ける性的事象を知ることによって、性文化や性道德に対する批判力と社会人としての使命感を培う。

(3) 創る

性教育の最終的な目標は、各人が成人になる迄に、明確な性的同一性 (gender identity), 男性同一性 (masculine identity) 女性同一性 (feminine identity) を身につけ、自分の性を認識、理解して、社会人として主体的な生き方が出来るようにすることである。その為には上記の「養う」「知る」の学習の上に立って、自己の人生観や社会観の形成と相いまって、人間の適切な性意識や性に関する高い価値観を身につけ、これにもとづいた性行動がとれる能力を自己（自我）の中に創造することが必要である。この過程を「創る」という表現で示してある。

以上の養う・知る・創るの三目標はいずれも分離・独立したものでなく、相互に絡み合ったものであるが、人間形成の発達段階からみると、「養う」の目標は乳児期から、「知る」の目標は幼年期から、「創る」の目標は主として自我の確立が進む思春期から始まるといえる。

以上性教育をすすめる上での基本的な知識として記述してきたが、それだけでなく実践していく上で行なわなければならない事項として、生徒の意識や実態の把握である。以下それ等について述べてみたい。

Ⅳ 性に関する生徒の意識や行動の実態

1. 性的成熟の促進化傾向

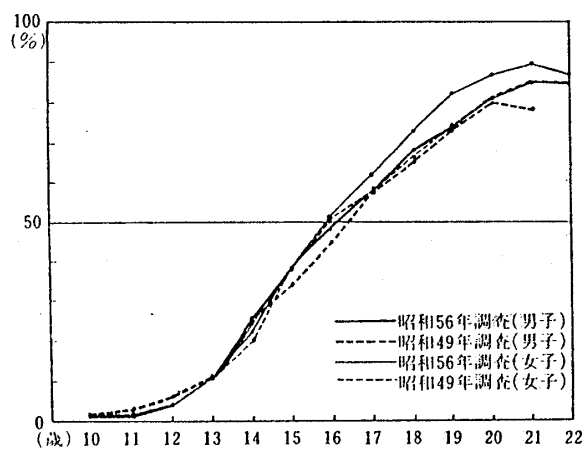
生徒の性的な成熟は体位の著しい向上と同様に早まってきたことは事実である。例えば青少年の性行動についての総理府の調査によると、女子の初経年齢は11～13歳が最も多く15歳では、全員が月経を経験している。従来に於いては初潮年齢は個人差が大きくばらつきがあったが、最近では中学校卒業までにほとんどの女子が経験する。また男子の精通は従来無意識に知る夢精や遺精が多かったが最近では自慰（マスターベーション）による意識的な射精経験者が多くなっている。（総理府青少年対策本部「青少年の性行動」昭和56年より）

2. 異性との交際

中学生、高校生になると異性に関心を示すようになり、異性との交際を始めたりするようになる。又異性への関心を表現する方法がわからなかったり、異性への関心とそれを抑えようとする心理との葛藤に苦しむこともある。総理府の調査によると、青少年のデート経験は図1のようになっており、男女を比較してみると、女子の経験率が高くなっている。この調査は総理府が財団法人日本性教育協会に委託したもので1974年（昭和49年）について2回目に当る。全国7都市の15歳から22歳迄の男女計4990人に各種の経験年齢をアンケート方式で回答してもらった。その結果、性行動の面では男女とも経験率が増加し、性交経験が、男子

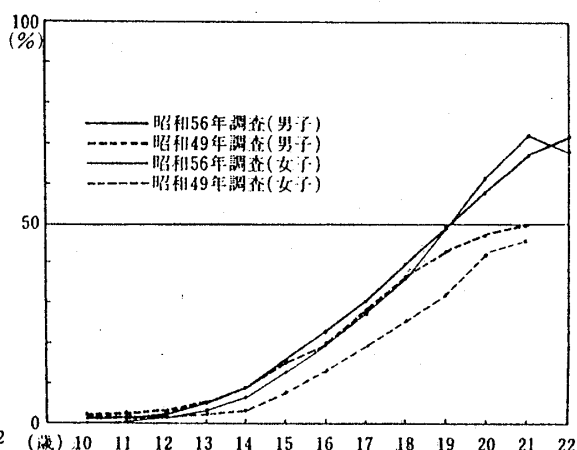
は21歳で46.8%と前回の28.1%から 1.7倍増えた。又女子は21歳で36.5%と前回の15.9%から 2.3倍増えている。このほか男女ともキス経験が19歳で50%に近づき、ペッティング経験は21歳で50%を超えている。異性と一対一でつき合うデートは16歳以上で女子が男子を上回る経験をしており、キスも20—21歳では女子の方が上回っている。性交経験の伸び率なども総合すると、最近女子の性行動が男子に比べて活発になっているようだと同協会ではみている。

図1 デート経験



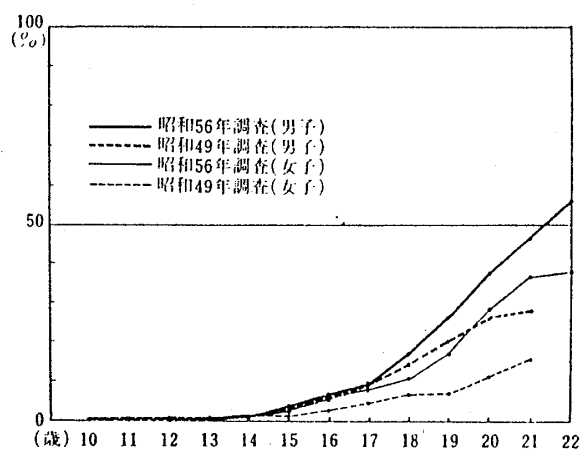
総理府青少年対策本部「青少年の性行動」(昭和56年)より

図2 キス経験



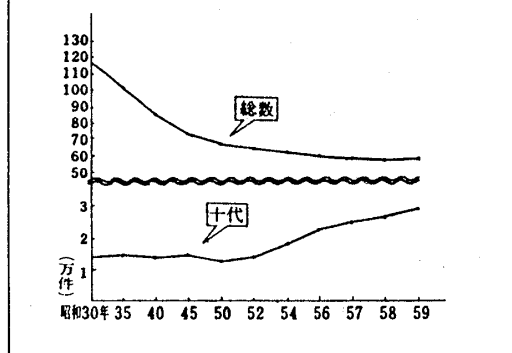
総理府青少年対策本部「青少年の性行動」(昭和56年)より

図3 性交経験



総理府青少年対策本部「青少年の性行動」(昭和56年)より

図4 人工妊娠中絶推移(厚生省調べ)



また、10代の人工妊娠中絶数は増加傾向にあり、昭和30年には全人工妊娠中絶数の 1.2%であったが、59年には 4.9%に増加し、10代の女性の 1,000人に 6.5人が人工妊娠中絶を行っている。

以上の如き実態の上で我々は性教育を次元を高めたセクシュアリティとしての性教育との考えの元に、単に経験率を云々するのではなく学習によって生徒達が真に男と女の人間関係を正しく見つめ真に人間としてのお互いの幸せを追求していく事が出来る様に指導したい。

V 性教育のすゝめ方〈中学校高等学校〉

1. 実施上の基本的原則

- (1) 各教科で性に関する内容がどこに、どの様に、いつ取り扱われているかを調べ、まとめあげる。例、保健、中1、6月、身体の発達（第二性徴）等。
- (2) 学級活動（ショート・ロング）を活用する。
- (3) 父母会や授業参観日等に親も共に考え話し合ってみる。
- (4) 学校行事との関連を調べその機会を活用する。
- (5) 適切な視聴覚教材を使用する。
- (6) 男女別々に実施する事がよいと思われるが、時には共学でお互いの立場での討論を行わせる。
- (7) 各学年の目標を明確化させる。
- (8) 委員会を組織し各学校の実状に即した内容と方法を作成する。
- (9) 担当者は常に人格の高揚に努め研鑽に励む。

2. 実施例 その1

(1) 学年 中学1年生

- (2) 目標 男子の精通現象、女子の初経を科学的に理解させ、自分自身の心と身体の発達と変化について理解させる。

(3) 各教科で扱う性の内容。

(保) 身体の発育、精神の発達

(道) 心身の健康、働く喜び、思いやりの心、家族の一員社会のきまり。

(理) 動物のからだの仕組み

動物の繁殖

緑色植物の繁殖

(社) 人口と民族

- (4) 学校行事、学年行事、LHR. その他、定期健康診断、遠足、文化祭、スポーツ大会マラソン大会、授業参観、父母会——2～3年に共通——。生理に関するアンケート実施、学年合宿、映画「今日は13才」鑑賞、スライド「心とからだの変化」、パンフレット「知っておきたい心と身体の知識」——日本母子衛生助成会——。

(5) 実施上の留意点

- ① 身体的変化のめざましい時期であるにもかかわらず、精神的、心理的には、未熟な時期でもあり、友人の目に対して、感受性の強い時期であるから、個人指導が大切である。

- ② 精通現象，初潮のアンケートの結果は，父母会で話し，子供達の受け取り方をよく理解して貰う。
- ③ 映画，スライド，パンフレット等を適宜組み合わせ理解に役立たせる。この場合は，単に与えるだけでなく，事前と事後指導を徹底させる。

実施例 その2

- (1) 中学2年生
- (2) 目 標

異性に対する接近欲が揚まり，異性と親しくしたい，つき合いたい，と望む者が現実となって現われてくる時期であるから，異性との人間関係について理解を深め，異性を尊重する態度や，行動を養わせる。

- (3) 各教科で扱う性に関する内容
 - (保) 疾病の予防，健康な生活
 - (理) 生物のからだのしくみ
 - (社) 江戸時代の町人文化，明治維新
 - (道) 生命尊重，正しい礼儀，自由と規律，友情を育てる。男女の協力。
- (4) 学校行事，学年行事，LHR，その他，中学1年に準じる。男女交際について，組や学年で話し合いを行う。これを基に生徒達と父母達とが，懇談会を利用し，グループ等での話し合いを行うとより効果的である。

実施例 その3

- (1) 中学3年生
- (2) 目 標

性と職業との関わりについて知らせ，自己の能力，適性に基ずいた職業選択が大切である事を理解させ，適切な進路選択が出来る様心かける。

- (3) 各教科で扱う性の内容
 - (社) 人間の尊重と日本国憲法，個人と社会，現代の文化と生活，職業と生産活動，民主政治と法
 - (理) 生物のつながり
 - (道) 望ましい生活習慣・友情・人間として生きる喜び，生命の尊重，人間としての自覚。
- (4) 学校行事，学年行事，LHR，その他，修学旅行，進路指導，授業参観等の中で適宜実施する。又，アンケート実施「男女交際について」に依って，その実態と，意識を調査し，指導に役立てていく。スライド「女子の性心理」鑑賞，父母会にて，上記アンケートの結果を披露し，スライドも見て貰い，共に考える。
- (5) 実施上の留意点
 - ① 将来の職業を考え各自の進路を選択する上で性への自覚も深めてゆける様指導する。
 - ② 男女交際の実態と意識調査を生徒やその父母にも知らせ，望ましい人間関係を共に考

えていく。

- ③ スライド「女子の性心理」を見て、男女の性徴の発達の相違と異性への欲求の相違やその考え方などを理解させる。
- ④ 保健学習を中3で行なわない場合は、特に学年として、LHRやその他の特別時間を設置し、発達と見合った指導をしていく必要がある。

その例として

○時期：夏休み前迄。6月初旬の中間テスト後がよいのではないか。

○時間：3～4時間。（まとめて行うのがよい。）

その展開

1時限目。身体的、精神的、心理的な男女の発達の相違と異性への関心のあり方等の相違について話とスライド等で考える。（学年全体で行なえる。）

2時限目。クラス別に7～8人のグループに分かれ、前もって、グループリーダ~~タ~~を選ばせ、話し合いを行う。

3時限目。各グループの代表者に依るグループ別話し合いの発表と総まとめ。（学年全体で行う）。健全な異性観をもち、望ましい行動がとれる様、又高校生活や社会へ出ていく段階として、現在をどう生きるか等についてまとめてみる。

この後、HRに入り、各自が、当日受けた内容や、今後の事等から自由に感想文を15分位で書き上げ終了とする。尚その後、関係の担任や、性教育を行った当時者、又、次年度行うであろう一学年下の学年主任等が集まり、反省会を持つのが望ましい。

実施例 その4 高等学校

保健、理科I、現代社会、倫理、家庭一般、国語等の教科で取り扱うが、教科間の関連を充分考慮し合い調整しながら進めていく。

(1) 目 標

- ① 性の本質を科学的にとらえ、青年期の特徴を理解して、自己の性の人格化、社会化を図り人間として適切な性行動を選択出来る能力をつくる。
- ② 男女の特質と人間としての平等性を認識させ、異性に対する尊敬と愛情の念を培い、相互に協力する態度をつくる。
- ③ 新しい世代の育成に対する責任と自覚をうながし、家庭と社会の連帯や人類の過去と将来に対する認識を深めさせ、性に対する真摯な態度をつくる。
- ④ 性の文化や社会的風潮をもつ意味を理解させ、性情報に対する批判力や選択能力を養うとともに、人間尊重を基盤とする性の価値観を確立させる。

指導例 高等学校3年

第1時限 異性とのあり方を考える

スライド 「今日は青春前編」35分を見、男子が女子に対して、又、女子が男子に対し

てどのような考えで接しているのかを考える。

第2～3時限 男性と女性の身体的心理的相違について考える。

16mm映画「あなたは女性－女性の生理学」17分。日本母性保護医協会

16mm映画「男性の生理」20分 同上協会

第4時限 結婚への心がまえ

① 自分の生き方を考える

② 相手との出会い

第5時限 結婚までの男女の在り方について、① 社会環境の変化－情勢の変化，精通年齢と結婚平均年齢の推移。考え方の変化。

第6～7時限 受胎調節について

16mm映画 「避妊の科学」17分 日本母性保護医協会

① 自然な受胎調節について

a) 基礎体温測定法

b) 荻野学説と荻野式受胎調節法

② 人工的受胎調節について

a) 器具を使用しての方法

b) 薬剤を使用しての方法

c) 手術・挿入方法

以上から身体的・精神的な影響と真の夫婦愛について考える。

第8～9時限 妊娠と出産及び育児について、16mm映画「妊娠と出産」20分 日本母性保護医協会

a) 妊娠の生理と心がまえ

b) 出産と産後の心得

c) 育児への母親としてのとり組方

第10～11時限 人工妊娠中絶について

a) 優生保護法の解説

b) 中絶手術の方法と身体的・精神的影響について

第12時間 生命誕生を考える。

16mm映画「生命の創造」21分を見る。

第13時間 各自の生き方を考える

討議や感想文書きも合わせて行ないしめくりとする。

Ⅵ 資 料

終りに性教育を進める上で、是非実施しておきたい事項として、各学校に於いて男女交際の実態と意識についての把握である。筆者が実施したアンケート結果をここに参考迄に掲げ

てみたい。

実施年と対象・人数

- ① 昭和57年私立高校1年より3年までの387名（女子生徒のみ）
- ② 昭和61年私立中学3年生（女子）141人
- ③ 昭和61年私立高校3年生（女子）120人
- ④ 昭和61年私立短大2年生（女子）47人

時期はいつでも夏休み前に実施。

男女交際についてのアンケート集計結果

1. あなたは異性の友達がありますか。

	57年 女子高校生	61年 中 学 生	61年 高 校 3 年	61年 短 大 生
	①	②	③	④
項 目	%	%	%	%
い る	35.4	16.3	18.8	80.9
い な い	51.4	73.8	72.3	10.6
今はいないがかった	13.2	7.8	8.9	8.5

A(1) Iでいる、今はいないがかったと答えた人のうちその友達は何人ですか。

1 人	13.4	12.0	48.3	23.8
2 人	3.6	1.4	25.8	2.3
それ以上	31.0	10.6	29.0	71.4
無 答	0.5			

(2)イ) その友達はどうような人ですか。

中 学 生	3.9	14.9	6.4	4.7
高 校 生	34.9	8.5	54.8	9.5
大 学 生	12.7	4.3	25.8	59.5
有職社会人	14.0	2.8	25.8	80.9
無職社会人	0.5		3.2	9.5

(2)ロ) 社会人の場合

結婚している人	0.5	0.7	3.2	9.5
結婚していない人	11.1	3.5	19.3	64.2
無 答	2.3			

(3) あなたとどの様な関係の人ですか。

	57 年 女子中学生	61 年 中 学 生	61 年 高 校 3 年	61 年 短 大 生
	①	②	③	④
	%	%	%	%
同 窓 生	23.5	11.3	45.1	64.2
近 所 の 人	2.6	2.1	9.6	7.1
親 戚	3.9	2.8	0	2.3
知 人	25.3	7.1	51.6	52.3
そ の 他	3.4		19.3	16.6
無 答	0.8			

(4) どんなきっかけで友達になりましたか。

通学途中で	11.6	6.4	9.6	19.0
街 で	3.9	1.4	6.4	16.6
いろいろな会場で	8.3	3.5	6.4	16.6
旅 行 で	2.8	1.4	9.6	2.3
塾 で	4.1	2.8	9.6	0
友人に紹介されて	13.2	1.4	38.7	30.9
そ の 他	14.2	6.4	32.2	40.4
無 答	2.1			

A(5) 今、その友達とどのようにつき合っていますか。

文通だけ	9.0	3.5	16.1	7.1
電話が主	13.4	3.5	35.4	35.7
日曜などに会う	11.4	5.0	16.1	50
ドライブ	3.6	1.4	6.4	54.7
夕方や暇な時に散歩する	2.1	1.4	3.2	7.1
何かのサークルや会などに共に参加する。	4.1	0.7	6.4	9.5
通学の際に話す	10.3	5.0	19.3	11.9
一緒に外泊する	0.3	0	3.2	16.6
喫茶店などで話す	7.2	0.7	3.2	28.5
そ の 他	17.1		35.4	2.3
無 答	2.3			

(6) つき合う時は何人でつき合いますか。

1 対 1	10.1	10.6	61.2	71.4
家族も含めず	4.4	3.5	25.8	4.7
グ ル ー プ	25.6	6.4	48.3	57.1

(7)イ) あなた方のことを両親が知っていますか。

	57 年 女子高校生	61 年 中 学 生	61 年 高 校 3 年	61 年 短 大 生
	①	②	③	④
項 目	%	%	%	%
は い	31.0	12.6	61.2	76.1
い い え	16.0	7.8	41.9	23.8
無 答	1.6			

7ロ) 両親以外で知っている人はいますか。

あなたの姉妹	17.8	5.0	29.0	95.2
親しい友達	39.8	12.1	83.8	90.4
彼の家の人	16.8	4.3	35.4	35.7
本校の先生	1.8	0.7	0	0
他校の先生	4.1	0	0	0
そ の 他	2.6	0.7	0	2.3
無 答	3.6			

(8) おもにどこでつき合っていますか。

自 宅	7.5	2.8	16.1	14.2
彼 の 家	8.3	3.5	32.2	35.7
公 園	8.0	2.8	12.9	7.1
喫 茶 店	11.6	2.1	6.4	52.3
劇 場	2.3	3.5	12.9	11.9
ゲームセンター	1.6	0	3.2	2.3
デパート	3.4	3.5	12.9	11.9
自 動 車	4.7	0.7	12.9	52.3
そ の 他	12.7	7.8	35.4	19.0
無 答	5.7			

A(9) つき合いの時に次の事柄で経験のあるものは

話しているととても楽しい	33.6	9.2	77.4	83.3
一緒にいるだけでとても楽しい	19.4	6.4	32.2	59.5
身体を寄せ合っていると心がはずむ	2.8	0.7	0	16.6
彼と離れているととても淋しくてやり切れない	4.4	0	3.2	23.8
彼に話を聞いてもらえると気が軽くなる	15.0	1.4	41.9	42.8
彼に何でも話したくなる	10.6	2.1	19.3	30.9

	57 年 女子高校生	61 年 中 学 生	61 年 高 校 3 年	61 年 短 大 生
	①	②	③	④
項 目	%	%	%	%
彼に思い切り甘えたい気がする	10.1	3.5	16.1	38.0
彼の要求はなんでも聞き入れたい思いがする	2.1	0	0	11.9
キスをする	5.2	0	0	28.5
性交の経験がある	1.6	0	0	38.0
そ の 他	1.8	0	6.4	0
無 答	4.7	0		

(10) 大体いつもどれくらいの時間を共に過ごしていますか。

1 時 間	11.6	7.1	25.8	7.1
2 時 間	8.0	1.4	19.3	11.9
3 時 間	7.0	0.7	19.3	26.1
それ以上	13.7	5.0	32.2	59.5
無 答	5.9			

(11) その時間帯はいつですか。

朝	4.1	2.8	9.6	4.7
午 前 中	9.6	2.8	19.3	4.7
午 後	27.4	5.7	48.3	59.5
夕 方	8.3	5.0	19.3	52.3
夜8時まで	2.3	0.7	9.6	35.7
それ以後	2.1	0.7	6.4	35.7
無 答	4.9			

(12)イ) 彼とのつき合いについてお母さんにきつく問われた事がありますか。

あ る	9.3	2.1	19.3	28.5
な い	33.1	14.9	70.9	64.2
無 答	3.6			

A(12)ロ) その時どうしましたか。

無視した	2.1	0	3.2	7.1
ごまかした	1.0	1.4	3.2	7.1
一部分話した	3.4	0	3.2	9.5
大体話した	1.6	0.7	9.6	9.5
何もかも話した	2.1	0.7	3.2	2.3
そ の 他	0.8		3.2	2.3
無 答	0.5			

(13) お母さんはそれに対しどうされましたか。

	57 年 女子高校生	61 年 中 学 生	61 年 高 校 3 年	61 年 短 大 生
	①	②	③	④
項 目	%	%	%	%
きつく叱られた	2.1	0	0	7.1
もうやめるようすすめられた	3.6	0.7	9.6	16.6
家へ呼んで来るよう言われた	2.8	0	3.2	2.3
全然気にとめなかった	3.4	2.1	12.9	9.5
そ の 他	1.0	0.7	12.9	11.9
無 答	1.3			

(14) 現在つき合っている人は、そのつき合いについてどの様を考えていますか。

続けようと思っている	17.8	7.8	45.1	64.2
どうしようかと迷っている	2.8	1.4	9.6	7.1
もうやめようと思う	2.1	1.4	3.2	2.3
無 答	18.1			

B(1) I でいないと答えた人は異性の友達をほしいと思っていますか。

思 う	25.3	44.7	40.7	60
思っていない	20.2	31.9	46.9	20
かつて思っていた	2.8	3.5	8.6	20
無 答	1.3			

(2) 現在異性の友達を持っていない理由は

学生として勉強のさまたげ	3.4	6.4	14.8	0
年令が若すぎる	2.6	7.1	4.9	0
ほしいけれど積極的に働きかけられないから	19.4	21.3	29.6	40
両親が反対しているから	2.8	2.1	24	0
時間がないから	7.8	13.5	23.4	0
過去に苦い経験があるから	0.8	1.4	8.6	0
今は特にほしいと思っていないから	21.4	29.1	40.7	40
そ の 他	3.6		6.1	20
無 答	1.3			

B(3) 異性の友達を今持つとすればどんな異性ですか。

	57 年 女子高校生	61 年 中 学 生	61 年 高 校 3 年	61 年 短 大 生
	①	②	③	④
項 目	%	%	%	%
高 校 生	26.9	39.7	48.1	0
大 学 生	21.2	6.4	45.6	60
小・中学の同窓生	3.6	30.5	4.9	0
職 業 人	3.6	5.7	12.3	40
そ の 他	1.8	5.0	3.7	0
無 答	1.0			

C(1) あなたは次のような場面に出会った事がありますか。

知らない人に声をかけられた	75.2	56.7	62.5	85.1
知らない人にドライブに さそわれた	21.4	6.4	24.1	51.0
淋しい通りで痴漢に出会った	11.4	12.1	22.3	8.5
電車や汽車の中で痴漢に あった	24.5	9.9	34.8	46.8
知っている人とドライブ に行って思いがけない場 にたたされた	0.8	0	8.9	12.7
家庭教師の先生にさそわれた	2.1	1.4	2.6	0
そ の 他	3.6	13.5	11.6	2.1
無 答	8.8			

(2) 上記のような場合にその事を誰かに話しましたか。

お 母 さ ん	28.2	23.4	32.1	14.8
姉 妹	10.9	7.8	16.9	14.8
家 の 人	15.5	14.9	15.1	10.6
友 達	45.5	34.8	48.2	61.7
先 生	1.0	1.4	5.3	0
そ の 他	4.4	12.8	9.8	6.3
無 答	12.7			

I あなたは特定の異性との交際についてどんな意見を持っていますか。

	57 年 女子高校生	61 年 中 学 生	61 年 高 校 3 年	61 年 短 大 生
項 目	%	%	%	%
積極的に交際して視野を ひろげるのがよい	51.7	27.7	41.9	55.3
高校生の間はグループで 接触し、1対1の交際は すべきではない	7.8	11.3	7.1	0
1対1の交際もよいが限度 を考えなければならない	64.6	63.1	71.4	46.8
お互いに愛し合っている なら限度を考えることは ない	3.9	7.1	3.5	4.2
好きな相手ならどんな要 求にも嫌とは言えない	1.8	0.7	1.7	2.1
高校生では責任がとれな いから性交まではすべき でない	35.1	5.0	43.7	21.2
特定の異性との交際は勉 学途中だからすべきでな い	4.9		8.9	2.1
責任がとれなくなるかも しれないから交際はすべ きでない	2.8		1.7	0
結婚前の純潔は絶対に守 らなければならない	20.2	12.1	34.8	12.7
純潔は女性には必要だが 男性には不要	7.0	5.0	5.3	6.3
男女を問わず純潔は必要	17.8	18.4	23.2	12.7
結婚に純潔は考えなくて よい	15.2		6.2	8.5
避妊の方法さえとれば高 校生でも限度は不要	5.2		3.5	2.1
たとえ妊娠しても産まな ければよい	0.5		0.8	0
堕胎は決してなされるべ きではない	26.9		42.8	31.9
交際の機会をつくってほ しい	25.1		11.6	2.1
性に関する知識をもっと 持ちたいと思う	12.7	3.5	10.7	21.2
異性の関心事や心理を知 りたい	24.0	28.4	19.6	27.6
結婚についての心の準備 や態度等を具体的に知り たい	16.8	8.5	16.9	29.7

図と表にみる妊娠中絶

《世界と日本》

人工妊娠中絶件数と実施率（女子人口1000対）年齢階級・年次別

年 次	総 数	20歳未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	総 数	20歳未満
1955	1,170 143	14 475	181 522	309 195	315 788	225 152	109 652	13 027	50.2	3.4
1960	1,063 256	14 697	168 626	304 100	278 978	205 361	80 716	9 650	42.0	3.2
1965	843 248	13 303	142 038	235 458	230 352	145 583	68 515	6 611	30.2	2.5
1970	732 033	14 314	141 355	192 866	187 142	134 464	54 101	6 656	24.8	3.2
1975	671 597	12 123	111 468	184 281	177 452	123 060	56 634	5 596	22.1	3.1
1976	664 106	13 042	108 187	190 876	168 720	121 427	55 598	5 386	21.8	3.4
1977	641 242	13 484	99 123	175 803	165 923	123 832	56 573	5 774	21.1	3.5
1978	618 044	15 232	94 616	159 926	167 894	120 744	53 431	5 614	20.3	3.9
1979	613 676	17 084	94 062	145 012	173 976	125 973	51 521	5 228	20.1	4.3
1980	598 084	19 048	90 337	131 826	177 506	123 277	50 280	5 215	19.5	4.7
1981	596 569	22 079	90 525	123 825	185 099	118 528	50 724	5 246	19.5	5.5
1982	590 299	24 478	90 257	113 945	181 148	121 809	53 133	5 095	19.3	6.0
1983	567 539	25 818	89 108	103 452	165 457	126 006	52 774	4 533	18.5	6.1

世界各国の妊娠中絶に関する法的規制

国名	規制状況	全面禁止	合法と認める適用条件					希望により 自由にできる	備考※
			医学的理由		優生学的理由 (胎児の異常)	強姦や近親相姦 による妊娠	社会的・ 医学的理由		
			母体の生命の危険 〈狭義〉	母体の健康 〈広義〉					
カナダ				●					
アメリカ合衆国								●※	胎児が胎外で生存能力をもつ前
イギリス				●	●		●※		胎児が胎外で生存能力を持つ前
ソ連								●※	3か月または12週以内
タイ				●		●			
アイルランド			●						
ペルー				●					
コロンビア			●						
日本				●	●	●	●※		24週以内

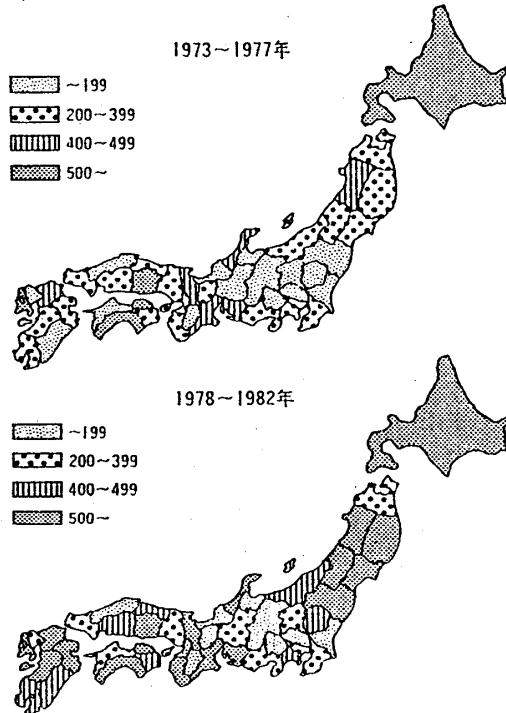
《出典》 Induced Abortion. A World Review, 1983 by Christopher Tietze, The Population Council, New York,

資料編

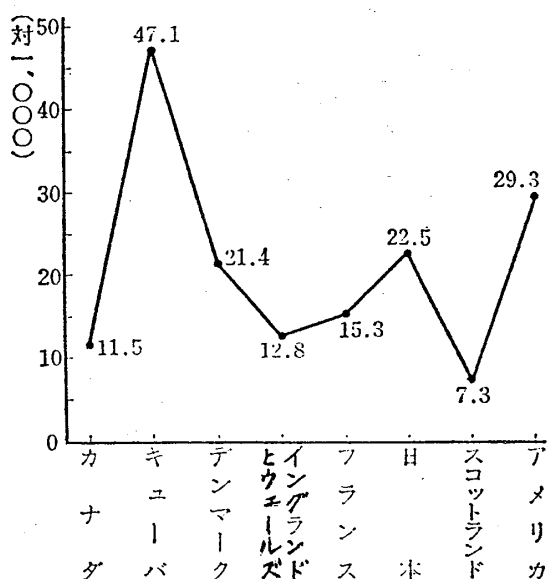
都道府県別若年女子人工妊娠中絶率 (15～19歳女子人口10万対、林謙治図)

昭和58年『優生保護統計報告』より

20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
43.1	80.8	95.1	80.5	41.8	5.8
40.2	73.9	74.0	62.7	29.4	3.8
31.1	56.0	56.0	38.8	21.2	2.5
26.4	42.2	44.7	32.9	14.7	2.1
24.7	34.3	38.4	29.2	13.8	1.5
25.2	33.8	38.5	28.3	13.4	1.4
24.2	32.3	36.4	28.2	13.5	1.5
23.8	31.2	34.9	26.8	12.7	1.4
23.8	30.5	34.5	26.8	12.4	1.3
23.3	29.3	33.2	26.8	12.0	1.3
23.5	28.9	32.8	27.1	11.9	1.3
23.2	27.9	33.3	26.8	12.2	1.2
22.8	26.1	32.3	25.2	11.8	1.1



諸外国の合法的中絶率 (1980年)



『文化としての妊娠中絶』(勁草書房)より

都道府県別20歳未満人工妊娠中絶件数 (1983年)

左は総数、右は20歳未満

全	国	567 539	25 818	三	重	10 702	552
北海道		46 486	3 302	滋	賀	4 503	151
青森	森	6 937	264	京	都	13 881	642
岩手	手	10 704	387	大	阪	36 102	1 829
宮城	城	12 767	614	兵	庫	22 962	930
秋田	田	10 685	406	奈	良	1 163	33
山形	形	8 653	369	和歌山		3 832	260
福島	島	13 762	602	鳥取		3 760	100
茨城	城	6 186	231	島根		3 979	88
栃木	木	8 221	373	岡山		14 029	690
群馬	馬	8 413	310	広島		12 959	599
埼玉	玉	19 434	727	山口		6 499	253
千葉	葉	16 623	738	島川		3 164	114
東京	京	43 329	1 819	香		6 355	380
神奈川	奈	27 687	1 435	愛媛		5 524	236
新潟	潟	12 638	574	高知		5 060	187
富山	山	4 422	112	福岡		28 279	1 191
石川	川	5 353	291	佐賀		4 589	129
福井	井	2 861	71	長崎		12 506	547
山梨	梨	1 240	46	熊本		9 119	306
長野	野	6 648	184	大分		9 468	339
岐阜	岐	8 263	329	宮崎		8 484	262
静岡	岡	15 076	647	鹿児島		10 443	308
愛知	知	30 660	1 773	沖繩		3 129	88

昭和58年『優生保護統計報告』より

〈引用・参考文献〉

- (1) 熊本悦明「アダムとイヴの科学」光文社
- (2) 平井信義「性教育指導事典」ぎょうせい
- (3) 「性教育指導要項解説書」日本性教育協会編
- (4) 松原純子「女の論理」サイマル出版会
- (5) レスター A, カーケンダール「人間の性＝過去・現在・未来」波多野義郎訳・編
- (6) 「現代性教育研究月報」JASE, 1985 VOL. 3 No.2
- (7) 「生徒指導における性に関する指導」文部省
- (8) 山本直英他「人間と性の教育」
- (9) 奈良林祥「現代の性」主婦の友社
- (10) 「青少年の性行動」日本性教育協会・小学館
- (11) 大島清「サルとヒトのセクソロジー」メディ・サイエンス社
- (12) L. タイファー池上・根岸訳「人間の性と心」鎌倉書房